

2020年卒
Vol.06

4月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年4月発行)

採用広報開始から1カ月。就職戦線はどのように進んでいるだろうか。

4月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は26.4%で、4人に1人以上が早くも内定を手に行っていることがわかった。

内定状況のほか多岐にわたる項目について、前年同期調査や先月調査と比較しながら特徴を分析したい。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は25.6社。前年同期調査(26.2社)より微減
- 今後の予定社数の平均は4.5社。前年(5.6社)をやや下回る
- 「3月1日以降の就職活動で知った企業」の割合が年々減少(2.2割→2.0割→1.8割)

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業セミナーの参加社数は平均8.8社。1カ月間で5.4社増加
- 今後の参加予定社数は3.4社。前年(4.9社)より1.5社少ない

3. 企業セミナーで重要だと思うこと、不快だったこと

- 重要なことは「社員と直に話せる場が設けられている」「選考に関する情報が得られる」など
- 不快なセミナーは「すでに知っている内容の繰り返し」「内容に乏しい」「時間が長すぎる」
- 企業セミナーの適切な所要時間は「1時間30分未満」が約半数(48.0%)

4. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出者は91.2%。提出社数の平均は9.4社
- 選考試験の平均受験社数は、筆記6.2社、面接3.4社。いずれも前年同期を上回る

5. 4月1日現在の内定状況

- 内定率は26.4%。前年同期実績(18.8%)を7.6ポイント上回る
- 内定取得者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは22.1%(モニター全体の5.8%)
- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」「調査・コンサルタント」「建設・住宅・不動産」の順

6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「水産・食品」、3位「素材・化学」
- 活動の中心は「業界トップ企業」22.3%、「大手企業」31.5%。大手狙いの学生が計53.8%
- 就職活動を終えたい時期は依然「6月」に集中(45.8%)

調査概要

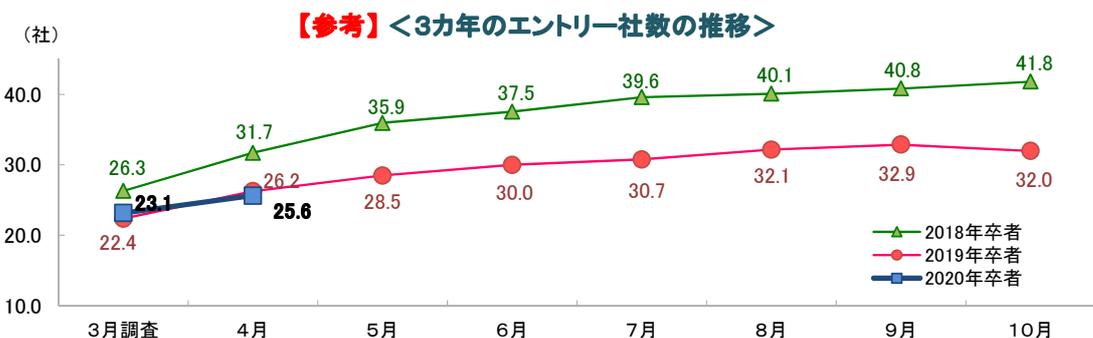
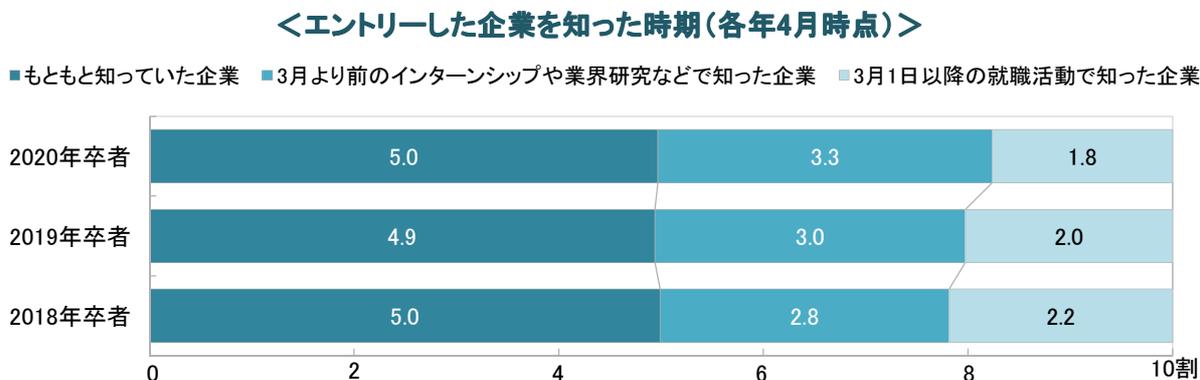
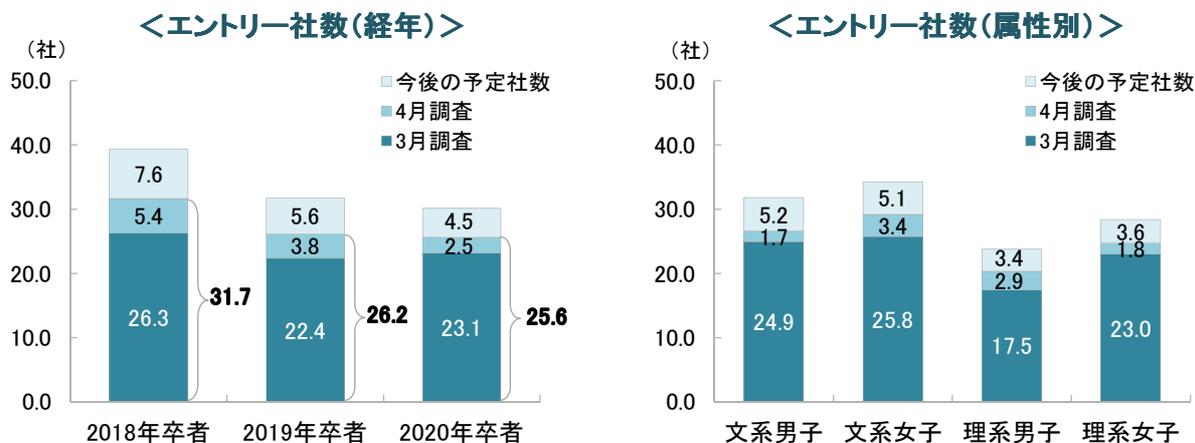
- 調査対象：2020年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数：1,250人(文系男子406人、文系女子376人、理系男子325人、理系女子143人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2019年4月1日～4日
サンプリング：キャリアス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. エントリー状況

企業の採用広報開始から1カ月が経過したが、2020年卒者の就職活動はどのように展開しているのだろうか。まず、4月1日時点の活動量を見てみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は25.6社。3月調査時点では前年同期を上回っていたが、この1カ月の伸びが2.5社にとどまったことで、今回の調査では前年(26.2社)を下回った。今後のエントリー予定社数は平均4.5社で、前年同期調査(5.6社)を約1社下回る。

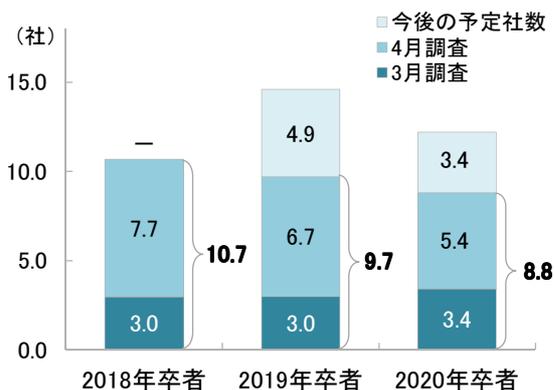
エントリーした企業を知った時期を経年で見ると、「もともと知っていた企業」が半数を占める点是不変だが、「3月より前のインターンシップや業界研究などで知った企業」の割合が年々増加。その分「3月1日以降の就職活動で知った企業」の割合が減少している(2.2割→2.0割→1.8割)。就活解禁前に知った企業を中心に活動を行う傾向が強まったことが顕著に表れている。



2. セミナー・会社説明会への参加状況

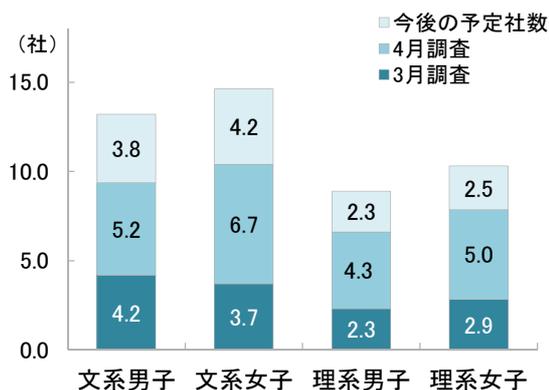
次にセミナー・会社説明会の参加状況を見てみる。企業セミナーの平均参加社数は8.8社で、3月調査の3.4社から、この1カ月で5.4社増加した。エントリー同様、3月時点では前年同期実績を上回っていたが、その後の伸びは鈍く、今回調査では同期実績(9.7社)をやや下回った。今後の参加予定社数は平均3.4社。昨年の4.9社より1.5社少なく、今後さらに差が開くことが推測される。

＜企業セミナー参加社数(経年)＞

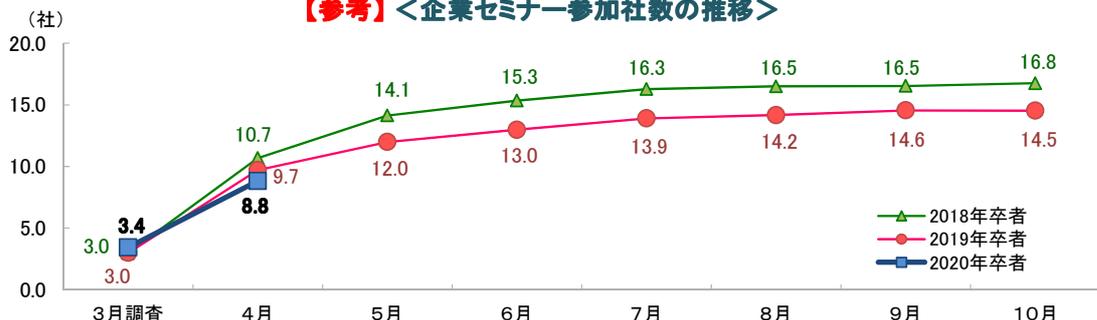


※「今後の予定社数」は2018年卒者は調査なし

＜企業セミナー参加社数(属性別)＞

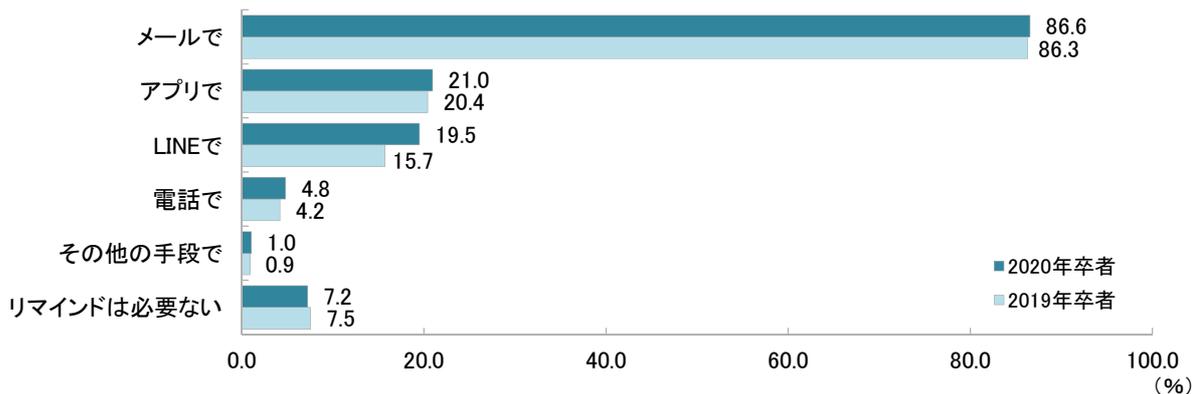


【参考】＜企業セミナー参加社数の推移＞



予約した企業セミナーのリマインドとして希望する方法を尋ねたところ、「メールで」が圧倒的に多く8割を超えた(86.6%)。「アプリで」「LINEで」は2割前後だが、増加傾向が見られる。特に「LINEで」は前年調査より3.8ポイント上昇した。「リマインドは必要ない」は1割未満にとどまり(7.2%)、大半の学生がリマインド連絡を必要していることがわかる。

＜企業セミナーの望ましいリマインド手段＞

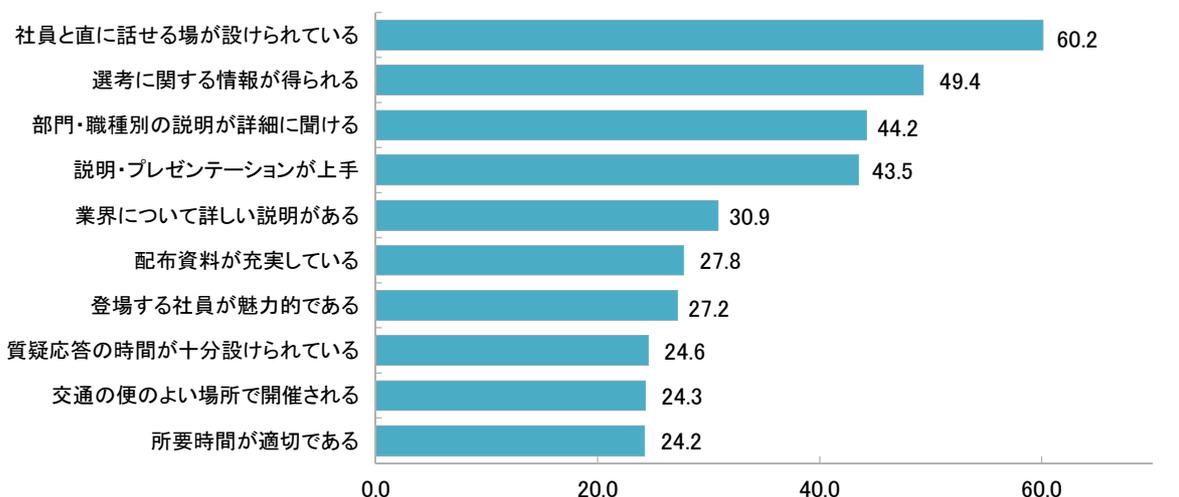


3. 企業セミナーで重要だと思うこと、不快だったこと

セミナーや会社説明会は企業研究の格好の場であるが、学生は企業セミナーで何が重要だと考えて参加しているのかを尋ねた。選択肢から5項目まで選んでもらったところ、最もポイントを集めたのは「社員と直に話せる場が設けられている」で、約6割が選んだ(60.2%)。次いで「選考に関する情報が得られる」(49.4%)が続き、具体的な選考日程やプロセスへの関心が強いことがわかる。

反対に、セミナーで不快だと思った経験を尋ねたところ、「すでに知っている内容の繰り返し」が圧倒的に多く、半数超の学生が選んだ(52.9%)。次に「内容に乏しい」(32.9%)が続く。学生が、志望企業に絞り込んで参加したり、事前にある程度調べたりしたうえで参加する傾向が高まっており、「インターンシップでの説明と同じだった」「ホームページに載っている話ばかりだった」など、新しい情報が得られないことを不快に思う学生が多いようだ。また「所要時間が長すぎる」も3割を超え(31.3%)、過密する就職活動の中で、拘束時間が長いことや予定時間に終了しないことへの不満の声が多く挙がった。こうした不快な思いや不満により志望度を下げる学生も少なくない。

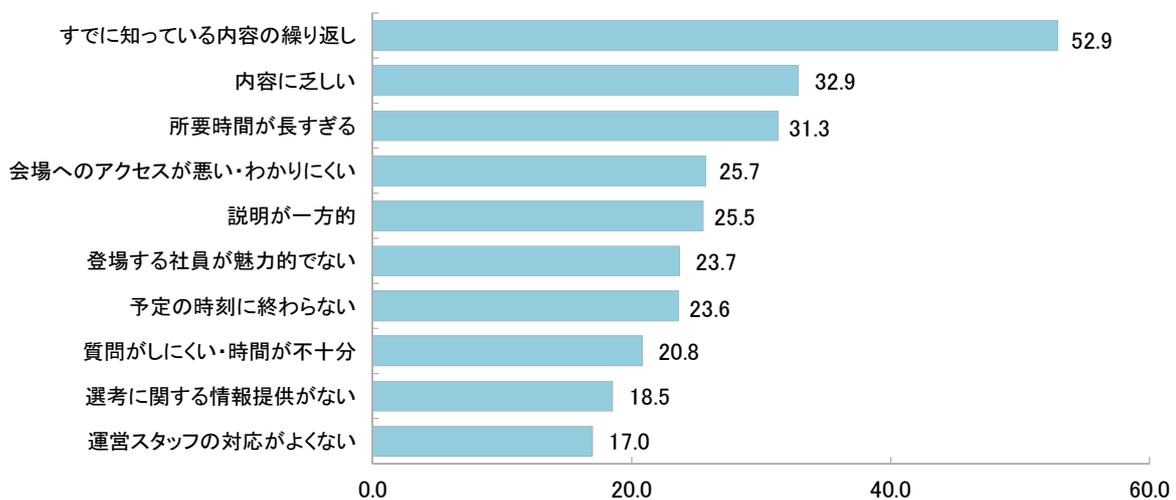
<企業セミナーで重要だと思うこと(上位10項目)>



※全19項目から5つまで選択。うち、上位10位まで

(%)

<企業セミナーで不快に思ったこと(上位10項目)>

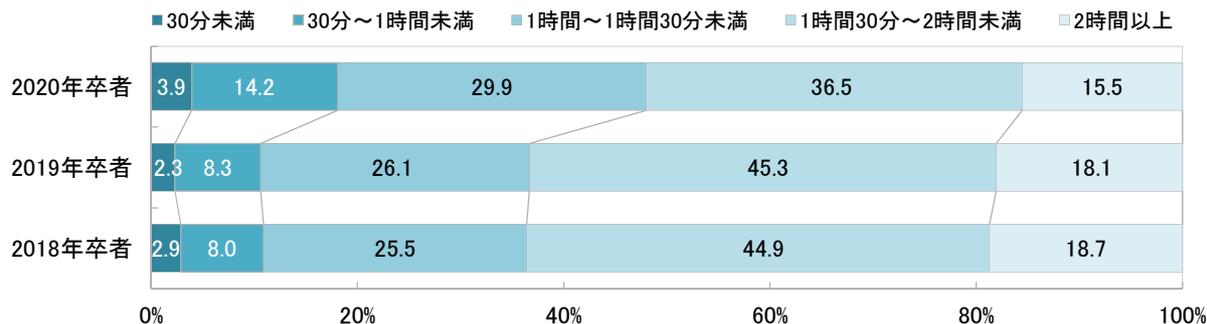


※全21項目からあてはまるものをすべて選択。うち、上位10位まで

(%)

企業セミナーで不快なこととして「所要時間が長すぎる」を選んだ人は約 3 割 (31.3%) だったが、学生から見てどの程度の時間を適切だと思えるかを尋ねてみた。30 分単位で回答してもらったところ、最も多いのが「1 時間 30 分～2 時間未満」(36.5%) で、次いで「1 時間～1 時間 30 分未満」(29.9%) が続く。3 カ年分を比較すると、今年は、1 時間 30 分未満のセミナーを望む学生が大幅に増加した。解禁後の 1 カ月が例年以上に過密していたこと、インターンシップなどで企業研究を進めていたことなどから、短い時間で効率的に進めたいと考える学生が増加したと考えられる。

<企業セミナーの適切な所要時間>



■企業セミナーで良かったこと・望ましいこと

- 3 月以降の説明会は、業界の説明は省いて、企業の特徴に時間を割いてくれて、ありがたかった。 <理系男子>
- 経営層が登場し、会社の将来像を語ってくれたところは好印象だった。 <文系男子>
- 魅力的な社員と話せたことで志望度がぐんと上がった企業がある。 <理系女子>
- 説明会中に、アプリを使い自由に質問できる企業があり、とても良かったです。 <文系女子>
- プレゼンの上手さが企業の印象には大きく影響すると感じている。 <文系男子>
- 一番知りたいのは、選考情報です。次に、社員との座談会や質問会があることが望ましいです。 <文系男子>
- 参加御礼メールに、参加時に記入したアンケートの Q&A が全文載せられていた。情報を共有してもらえるのはありがたい、丁寧な回答に大変好感を持った。 <文系女子>
- あとから見直せるように、スライドを印刷したものをいただけると嬉しいです。 <理系女子>
- 競合他社との比較を客観的に行っていた企業があり、とても理解しやすかった。 <文系男子>
- 新入社員のドキュメンタリー映像があり、仕事内容や苦労したことなどがとてもわかりやすかった。 <文系女子>

■企業セミナーに参加して不快に思ったこと

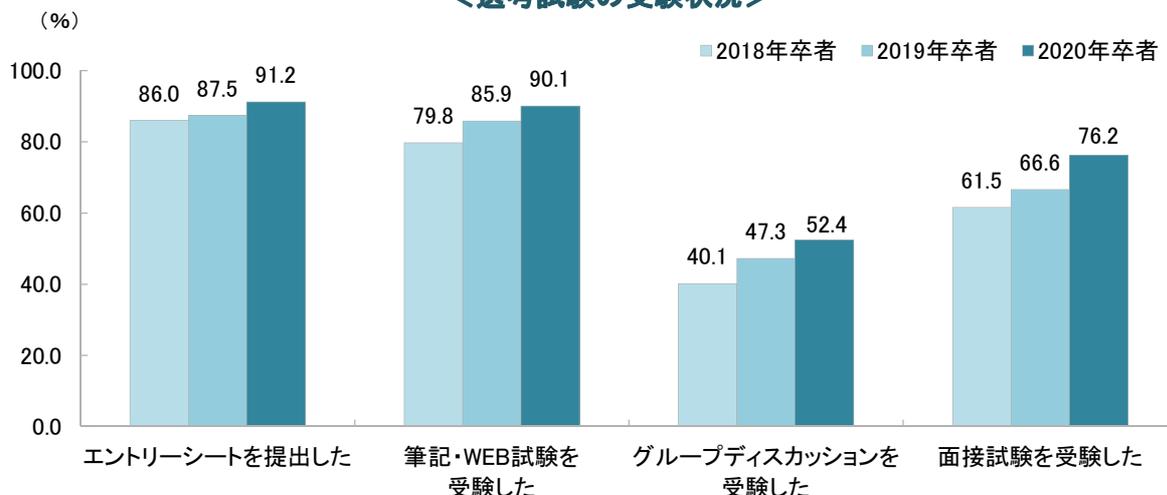
- インターンシップに参加した際に聞いた内容とほとんど同じだったこと。 <文系女子>
- 業界を絞っていたので、どの企業でも同じような話が冒頭に繰り返されて、退屈を感じた。 <理系男子>
- 人事が元気がなく長時間だらだら説明している企業は、志望度が下がった。 <文系男子>
- 言われていた終了時刻より 1 時間以上長く拘束された。 <理系男子>
- プレゼンを聞いている時、他の社員同士の私語がうるさいのが気になったことがありました。 <文系女子>
- 色々な社員の話を聞きたいのに、同じ部署からしか参加しておらず、がっかりした。 <文系男子>
- 理系向けのセミナーなのに理系社員が 1 人もいなかったときは、時間ももったいなかった。 <理系女子>
- 選考には説明会参加が必須なのに、開催日程が少なく、常に満席で予約できない。 <文系女子>
- 会社説明会に履歴書を持参するように指示される企業は、志望動機が書けないので困った。 <理系女子>

4. 選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート (ES) を提出した学生は全体の 91.2% で、早くも 9 割以上が提出経験をもつ。提出社数の平均は 9.4 社で、前年同期 (7.5 社) を 2 社近く上回った。ただし、締切日を前年より早める企業が目立つことから、提出のタイミングが前倒しになっていると考えると、今後は提出のペースは鈍くなるのが予想される。

面接試験受験者は、前年より 10 ポイント近く増加し、7 割強に上る (76.2%)。受験社数の平均は、筆記・WEB 試験が 6.2 社、面接試験 3.4 社で、社数も前年同期より多い。採用意欲の強い企業が、選考開始時期を前倒ししていることや、インターンシップ参加者向け早期選考の増加などから、学生が選考を受け始めるタイミングも早まっていることがうかがえる。

＜選考試験の受験状況＞



＜選考試験の受験社数＞

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	9.4	7.5	9.9	10.2	7.5	9.8
筆記・WEB試験	6.2	4.9	6.8	6.4	5.0	6.4
グループディスカッション	2.3	2.3	2.6	2.2	2.1	1.8
面接試験	3.4	3.0	3.4	3.8	3.0	3.0

【参考】＜ES提出社数の推移＞



【参考】＜面接試験受験社数の推移＞



5. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の26.4%。先月(3月1日)の13.9%から1カ月間で12.5ポイント増えた。前年同期(18.8%)を7.6ポイント上回り、採用活動の前倒しが進んでいることが見て取れる。4月の内定率が2割台をマークするのは2015年卒者以来5年ぶりだが、当時は選考解禁が今より2カ月早い4月1日だったことを考えると、今年いかに早いペースで内定が出ているかがわかる。

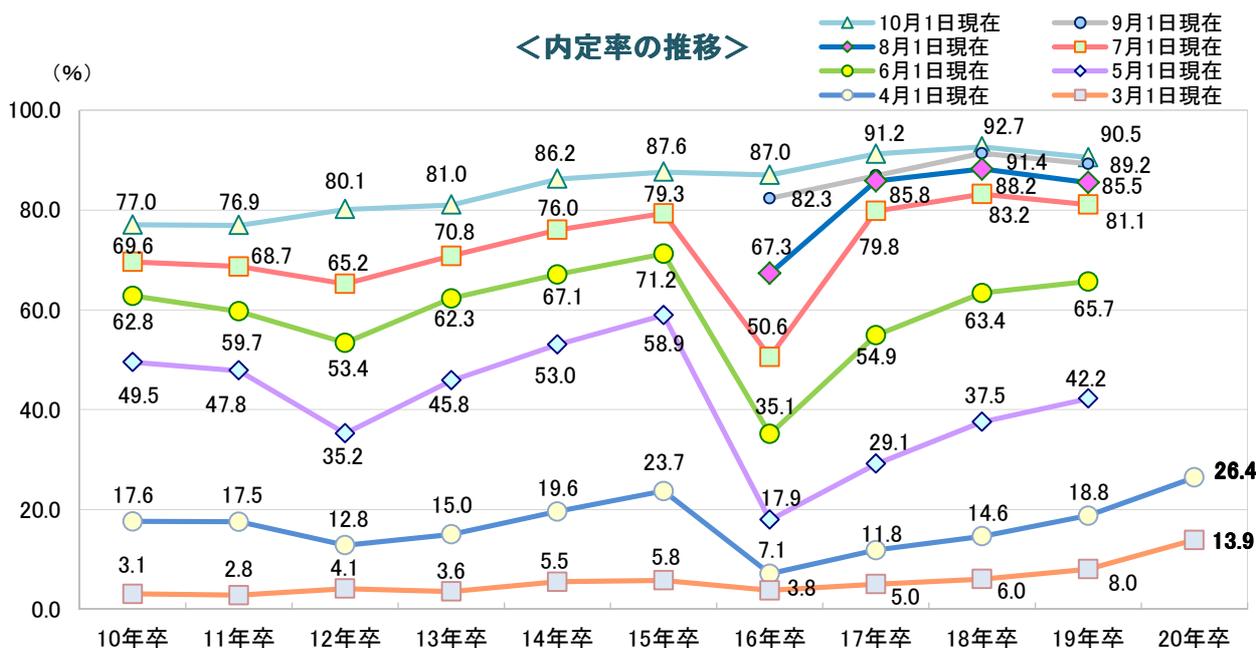
ただ、内定取得者のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは2割程度(22.1%)で、内定者の7割以上(75.2%)が就職活動を継続していると回答。前年同期調査に比べ終了割合は高いものの、モニター学生全体を分母にとると、就職活動を終了した者の割合は6%程度。大半の学生にとって本番はこれからだ。

<4月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		26.4 (18.8)	21.2 (20.5)	26.9 (14.9)	30.5 (20.7)	30.8 (19.6)
内定なし		73.6 (81.2)	78.8 (79.5)	73.1 (85.1)	69.5 (79.3)	69.2 (80.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	22.1 (17.3)	19.8 (15.1)	19.8 (15.7)	26.3 (26.2)	22.7 (6.9)
	活動は終了したが複数内定保持	2.4 (1.9)	3.5 (1.4)	1.0 (0.0)	2.0 (1.6)	4.5 (6.9)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (0.0)	0.0 (0.0)	1.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	75.2 (80.8)	76.7 (83.6)	78.2 (84.3)	71.7 (72.1)	72.7 (86.2)
内定社数/平均		1.5 (1.3)	1.6 (1.3)	1.4 (1.2)	1.4 (1.4)	1.5 (1.4)

<内定率の推移>



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

4月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が26.1%で最も多く、「調査・コンサルタント」(19.7%)が2位。この2業界は文系理系ともに上位2位を占めるが、理系において「情報処理・ソフトウェア」が34.3%に上り、内定が集中している様子がわかる。3位以下は「建設・住宅・不動産」(13.0%)、「人材紹介・人材派遣」(9.7%)、「情報・インターネットサービス」(8.5%)の順。

内定を得た企業の従業員規模の比率を出し、前年同期調査と比較してみた。最も多いのは「1,000人~4,999人」(36.9%)で、前年より8.3ポイント増えた。「5,000人以上」(22.9%)を合わせると59.8%となり、大手企業の内定が約6割を占める。

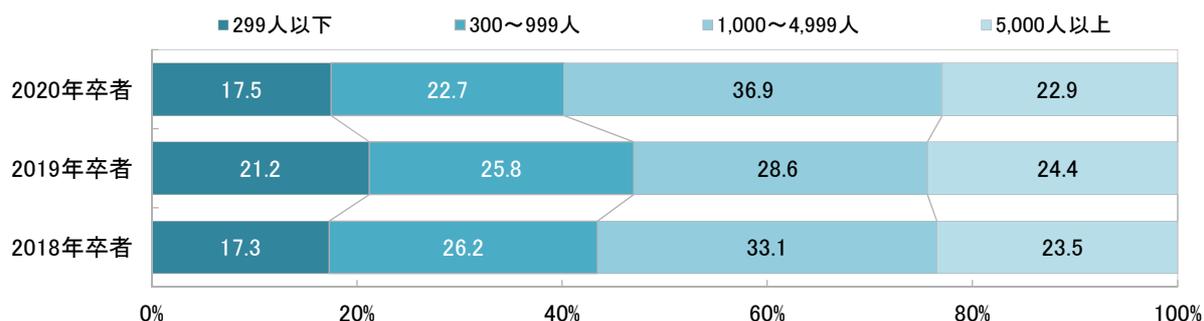
なお、内定を得た企業のインターン参加経験もあわせて尋ね、同様に比率を出してみたところ、内定企業の63.1%がインターンシップに参加した企業だった。この割合は年々増加しており、早期の内定はインターンシップ参加企業を中心に獲得する傾向が強まっている。

<内定を得た業界(上位5業界)>

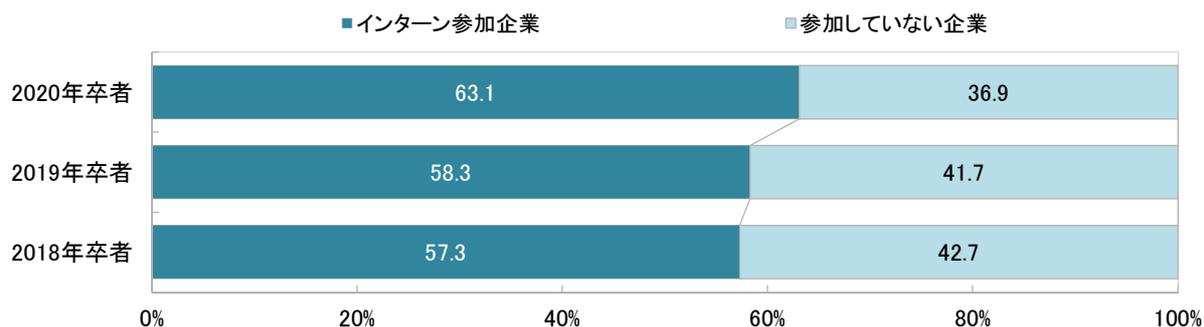
全 体		文 系		理 系		
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	26.1	調査・コンサルタント	23.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	34.3
2	調査・コンサルタント	19.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.8	調査・コンサルタント	14.7
3	建設・住宅・不動産	13.0	建設・住宅・不動産	12.3	建設・住宅・不動産	14.0
4	人材紹介・人材派遣	9.7	人材紹介・人材派遣	11.2	医薬品・医療関連・化粧品	7.7
5	情報・インターネットサービス	8.5	情報・インターネットサービス	9.1	情報・インターネットサービス	7.7
					人材紹介・人材派遣	7.7
					その他サービス	7.7

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

<内定を得た企業の従業員規模>



<内定を得た企業のインターン参加有無>



6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の 93.4%）の動向を確認したい。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(15.7%) で、以下「水産・食品」(14.5%)、「素材・化学」(14.3%) と続く。3 位まで前年同期調査と同順位。

文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が最も多く、男子は「建設・住宅・不動産」が続き、女子は「マスコミ」が 2 位。理系は、男子は「電子・電機」が 1 位で、ここに IT 業界が続く。女子は「医薬品・化粧品」「水産・食品」「素材・化学」の 3 業界に人気が集中している。

<就職活動継続者の志望業界（上位 10 業界）>

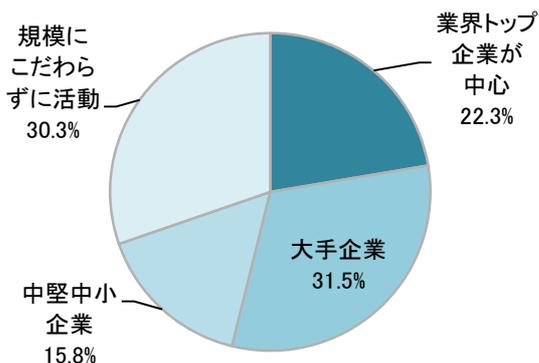
※5 つまで選択 (%)

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	15.7	銀行	20.5	銀行	17.3	電子・電機	24.9	医薬品・医療関連・化粧品	33.1
2	水産・食品 ②	14.5	建設・住宅・不動産	17.5	マスコミ	15.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	21.9	水産・食品	27.3
3	素材・化学 ③	14.3	運輸・倉庫	15.1	運輸・倉庫	14.4	情報・インターネットサービス	20.8	素材・化学	26.4
4	情報・インターネットサービス ⑤	14.2	商社（専門）	15.1	水産・食品	14.1	自動車・輸送用機器	19.6	建設・住宅・不動産	15.7
5	建設・住宅・不動産	14.1	官公庁・団体	13.6	ホテル・旅行	14.1	素材・化学	17.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.0
6	電子・電機 ⑩	13.8	情報・インターネットサービス	13.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.8	精密機器・医療用機器	17.4	精密機器・医療用機器	11.6
7	医薬品・医療関連・化粧品 ⑥	13.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.3	商社（総合）	13.1	機械・プラントエンジニアリング	16.2	官公庁・団体	9.9
	銀行 ⑦	13.5	商社（総合）	11.7	医薬品・医療関連・化粧品	12.2	医薬品・医療関連・化粧品	15.5	その他サービス	9.9
9	運輸・倉庫 ⑧	12.3	電子・電機	11.7	官公庁・団体	11.9	水産・食品	12.8	電子・電機	9.9
10	官公庁・団体 ④	11.4	水産・食品	11.4	建設・住宅・不動産	11.9	調査・コンサルタント	12.5	商社（専門）	9.1
			保険	11.4					情報・インターネットサービス	9.1

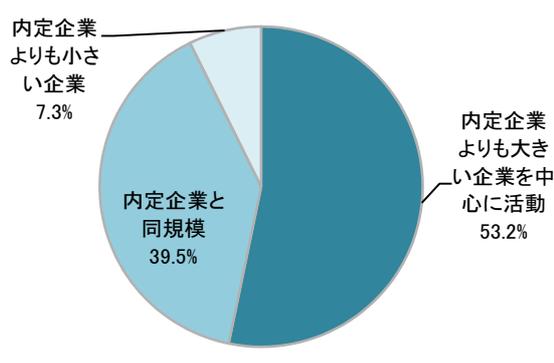
※○の中の数字は前年同期調査の全体順位10位以内

就職活動の中心としている企業規模を尋ねたところ、「業界トップ企業」22.3%、「大手企業」31.5%で、大手狙いの学生が計 53.8%に上った。さらに、内定を持ちながら就職活動を継続している者には、内定保持企業の規模と比較してもらった。「内定企業よりも大きい企業を中心に活動」が半数を超えており（53.2%）、早期選考で得た内定を保持しつつ、より大手の企業に挑戦しようという戦略が読み取れる。

<就職活動の中心とする企業規模>



<内定保持者の今後の活動方針>



※内定保持者が回答

今後、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「これまでに興味をもった企業（エントリーした企業）を中心に活動する」（40.0%）だが、年々割合は減少。代わりに「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」（17.6%）が増加している。企業の選考のタイミングが早まったことで、学生側も早い段階で選考が進んでいる企業に注力するという動きに結び付いているのだろう。実際、4月時点で選考中の企業数も年々増加している（4.4社→4.8社→6.2社）。

＜今後の就職活動の方針・戦略＞

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業（エントリーした企業）を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

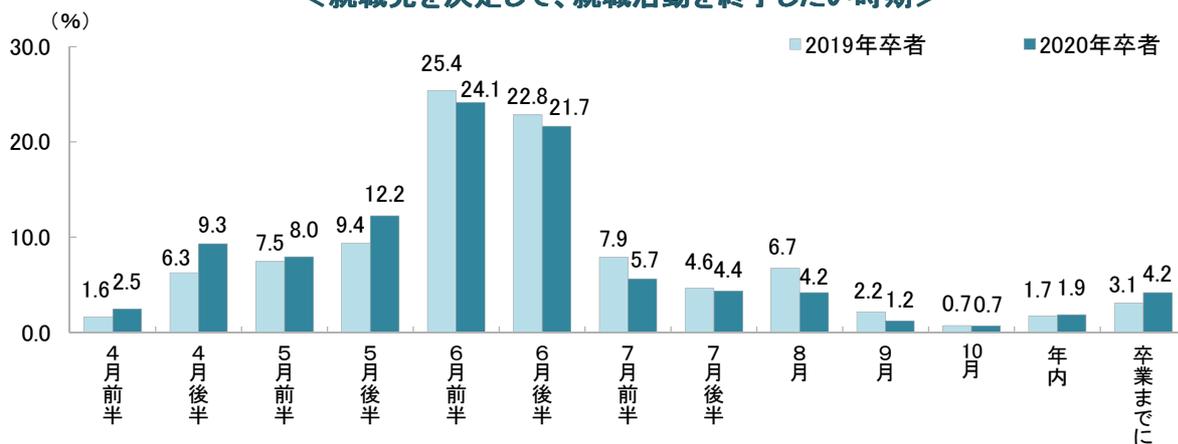


※各年4月調査

	全体	2019年卒者	2018年卒者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	6.2	4.8	4.4	6.5	6.6	5.0	6.3

就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は今年も6月が多い。6月前半・後半を合わせると45.8%になり、活動継続学生の半数近くが「6月が正念場」と捉えている様子がわかる。一方で、4月と5月の割合が高まり、より早い時期に終わりたいと考える学生が増えた。6月の選考解禁を待たずに終了したいと考えている学生は合計32.0%で、3人に1人の割合。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



■就職活動に関して思うこと

- どんなところに問題があって、どう修正していくべきなのかわからず、手探りで進んでいる。 <文系男子>
- 大企業の倍率はむしろ上昇していると感じる。 <理系男子>
- 説明会だけでなく面接の日程もすぐ埋まるのが想定外でした。 <理系女子>
- ESはほぼ書き終わり安心している。これからの面接が勝負であると考え、少し緊張している。 <文系男子>
- ゴールデンウィークが長いので、内定決まるのが早い組と遅い組に分かれそう。 <文系女子>